

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：82723

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02487

研究課題名(和文) 戦前期『サンデー毎日』と大衆文化に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on "Sunday Mainichi" and Popular Culture during Pre-war Period

研究代表者

副田 賢二 (Soeda, Kenji)

防衛大学校(総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群)・人文社会科学群・教授

研究者番号：40545795

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本初の本格的週刊誌である『サンデー毎日』は、同時に創刊された『週刊朝日』とともに、1920年代から50年代まで日本の文学と大衆文化の領域に大きな影響を与えてきたが、その雑誌メディアとしての研究は十分にされていなかった。本研究は、同誌掲載の文学テキスト、及びその誌面の様々な視覚表象とレイアウトの実態とその表現戦略を解明した。そこでは、子母沢寛や大庭さち子などのいわゆる「大衆文学」作家のみならず、芥川龍之介や川端康成などの著名作家をも研究対象として、当時の「文壇」とその作家像を構成する週刊誌の表象の構造を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで研究が手薄であった戦前期週刊誌を対象とし、雑誌メディアとしての実態と機能、表現戦略を総合的に解析することで、1920年代から敗戦後の雑誌メディアとその消費形態に光を当てた。従来は「大衆文学」の舞台として扱われてきた『サンデー毎日』の意義を再検討し、様々な雑多な言説と視覚表象が交錯する表象の場として同誌を捉え直したことは学術的意義がある。また『サンデー毎日』の記事や視覚表象を収集し、データ化しデータベースを作成したことは、従来は総目次のみであったその研究資料に新たに重要な資料を加え、研究のみならず、広く一般社会に戦前期週刊誌の情報や視点を提供したことに社会的意義が認められる。

研究成果の概要(英文)："Sunday Mainichi" is the first authentic weekly magazines in Japan, with "Shukan Asahi". Though this Magazine had a great effect on Japanese modern literature and popular culture in time over thirty years period from 1920's to 1950's, little work had been done on this magazine.

This study revealed the actual situation and strategy of literary works, visual representations and layout of "Sunday Mainichi", and researched many authors, not only "Taishu Bungaku(Popular literature)" authors as Simozawa Kan and Ooba Sachiko, but also Akutagawa Ryunosuke and Kawabata Yasunari, revealed the structure of representations that constructs "Bundan(Literary community)" and images of its authors in weekly magazines.

研究分野：日本文学

キーワード：戦前期『サンデー毎日』研究 視覚表象とレイアウト 大衆雑誌メディアのなかの「文学」「作家」像の生成と消費 「大衆文学」と「純文学」

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦前期週刊誌『サンデー毎日』及び『週刊朝日』が本格的な文学・メディア研究の対象とされていなかったこと、その誌面や掲載コンテンツには新たな研究の視野を開くための多くの重要な問題が見出せることを、本研究の申請以前から、様々な研究会の場において検討し、確認していた。

(2) ただ、当該雑誌の総目次は刊行されているものの、その内容についての資料や研究論文はほとんど存在せず、最初から実物調査によって、まず資料収集とそのデータ化の作業を一から始めねばならない状況であった。平成 29 年 7 月に第 1 回資料調査を大阪市立大学学術情報総合センターにおいて実施することから、本研究活動は開始することになった。

2. 研究の目的

(1) 日本初の本格的週刊誌として 1922 年 4 月に創刊された『サンデー毎日』は、政治・経済・社会・文化・娯楽などの各記事を備えた総合的メディアとして、『週刊朝日』と共に戦前から 1950 年代にかけて大きな社会的影響力を持った。しかし、月刊総合誌や日刊新聞に関しては文学・メディア研究が進展する一方で、週刊誌メディアの歴史的意義の分析や記事内容に関する研究は不十分であった。本研究は、そのような戦前期の出版・雑誌メディア研究史上における欠落を埋めるものである。

(2) 写真・絵画・図版等多用した戦前期『サンデー毎日』の表現形態をめぐる受容形態とその意義を、戦前期週刊誌メディアの実例として分析することで、個別の雑誌研究に留まらない、現代の出版メディアの構造の解明にも繋がる、従来にない新たな視点を提示するものである。

3. 研究の方法

(1) 戦前期『サンデー毎日』の実物は、「読み捨て」されるというその雑誌としての特性ゆえに現在では入手が困難であり、図書館等での所蔵も少ない。よって、まずその実物を大阪市立大学や国会図書館等で調査し、その撮影やコピーによってデータを収集し、そのデータベースを作成して整理することから研究活動は始まった。そのデータもかなりの量が蓄積され、表紙データや視覚表象についてはデータベースが完成した。

(2) また、『サンデー毎日』以上に調査・閲覧が困難な戦前期『週刊朝日』についても多くの実物入手し、同時期の雑誌メディアを比較しながら研究調査を実践することが可能となった。

(3) また、それと同時に複数回の研究成果発表会を開催し、科研費メンバー外の広い範囲から参加者を募り、様々な議論や問題提起を展開し、研究上の交流を実現することができた。日本出版学会や様々なメディア研究会との連携も実現することができた。

4. 研究成果

(1) 初年度である平成 29 年度は、主に戦前期『サンデー毎日』の資料調査及び収集を実施した。まず、平成 29 年 7 月に第 1 回資料調査を大阪市立大学学術情報総合センターにおいて実施し、戦前期『サンデー毎日』及び関連資料を 2~5 日間にわたって調査、データ収集した。また、同年 12 月には東京都世田谷区の大宅壮一文庫にて第 2 回目の資料調査を実施し、所蔵されている戦前期『サンデー毎日』及び関係雑誌を調査、複写収集した。平成 30 年 3 月には、本年度の第 3 回資料調査を大阪市立大学同センターにて 2~3 日間実施した。この時は同時に研究発表会も開催し、4 名の参加者が『サンデー毎日』に関するそれぞれの研究成果を発表した。その際には、大阪市立大及び関西圏の大学に所属する研究者も参加し、専門的かつ多角的な議論を展開することができた。資料収集についても戦前期『サンデー毎日』を中心に順調に進め、そこで研究の基盤を固めて、次年度以降に様々な学会や研究会で研究発表を行い、論文発表を可能にするための準備が整った。

(2) 2 年目である平成 30 年度は、戦前期『サンデー毎日』の資料調査及び収集に加えて、その内容分析によって得られた研究成果を広く外部に発表した。まず、平成 30 年 7 月に大阪市立大学において、第 1 回研究成果中間発表会「初期『サンデー毎日』と文壇 1920 年代を中心に」を開催し、メンバー 3 名の発表を、コメンテーターを招聘した上で実施した。この研究会は広く外部に公開して開催したものであり、メンバー外からも多くの参加者があった。同時に『サンデー毎日』の調査も実施し、データを収集した。また、同年 12 月から翌 1 月にかけて 3 回、本年度購入した『週刊朝日』の現物の調査を防衛大にて実施し、複数回調査した者も含めて 6 名のメンバーが調査を実施した。平成 31 年 1 月には、研究代表者副田が大阪市立大で『サンデー

毎日』調査及び研究協力者中村健氏との打ち合わせを実施し、第2回研究成果中間発表会の準備を進めた。同年3月末には、第2回研究成果中間発表会「視覚空間と交錯する言説／文学 『サンデー毎日』的モダニズムの諸相」を開催し、メンバー3名による発表を実施した。この研究会も広く外部に公開して開催したものであり、メンバー外からも多くの参加者があった。資料収集については、『サンデー毎日』のデータを広く収集すると共に、同誌の重要な研究対象である表紙画像についてはほぼ全てをデータ化し、リストを作成した。

(3) 令和元年度は、主に学術研究誌への論文掲載及び学会・研究会での研究発表で発表した。2019年7月に第3回科研費研究成果中間発表会を大阪市内で実施した。同時に日本出版学会関西西部会に参加し、雑誌メディアにおける挿絵やレイアウトの研究において、同学会との交流を実現した。なお、2020年3月に京都教育大学で第4回科研費研究成果報告会（一般公開形式）の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染流行のため延期となった。また、大阪市立大学や国立国会図書館、大宅文庫等で調査した戦前期『サンデー毎日』をめぐる資料やデータベースについては冊子形式の資料集として刊行して実績報告書とする予定であったが、3月以降図書館等での調査が不可能になったため、研究期間延長申請を提出し、受理された。延長期間は1年間。

(4) 本研究の最終年の2019年度末から、Covid-19パンデミックの影響で最終研究成果報告会は開催できず、学会等での研究成果の公開も困難となった。また、その実現の為に不可欠な実地での資料調査が次第に困難になった。研究期間を延長した令和2年度は当初から出張や研究会の開催ができず、特に地方在住の研究分担者の活動は非常に困難となった。その中で、2010年10月に研究成果報告資料集を刊行した。当初予定していた、研究成果を一般社会に広く公開する研究書の刊行はできなかったが、その目標は新たな科研費研究の方に引き継ぎ、現在様々な形で研究活動を展開している。そのためのデータ収集と基礎研究の蓄積、研究のネットワークは、十分に確立することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 副田 賢二	4. 巻 第101集
2. 論文標題 戦争テクノロジーとしての「防空」空間と文学 虚空 / 地上を繋ぐ感覚と視線のネットワーク	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 219-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副田 賢二	4. 巻 43号
2. 論文標題 前線 / 銃後 の物語と「大衆文芸」の機能 戦前期『サンデー毎日』掲載の大庭さち子の小説を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山口国文	6. 最初と最後の頁 63-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 卓	4. 巻 34
2. 論文標題 文壇ゴシップを随筆として書くこと 『サンデー毎日』の川端康成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 川端文学への視界	6. 最初と最後の頁 7-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五島 慶一	4. 巻 第14号
2. 論文標題 芥川龍之介の故郷（ホーム）& 異郷（アウェー）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 芥川龍之介研究	6. 最初と最後の頁 44 - 57（仮）
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤 純	4. 巻 第4号
2. 論文標題 「僕は生れたくはありません。」 芥川龍之介「河童」における 存在 の搾取	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 G-W-G	6. 最初と最後の頁 27 - 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦卓	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 文壇ゴシップを随筆として書くこと 『サンデー毎日』の川端康成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『川端文学への視界 34』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦卓	4. 巻 1
2. 論文標題 文壇ゴシップと詰将棋	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 将棋と文学スタディーズ	6. 最初と最後の頁 131-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村健	4. 巻 1
2. 論文標題 戦前の週刊誌と連載小説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本出版学会関西部会編『出版史研究へのアプローチ：雑誌・書物・新聞をめぐる5章』	6. 最初と最後の頁 9-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 副田 賢二
2. 発表標題 戦前期週刊誌メディアの物語 / 表象空間とメロドラマ 前線 / 銃後の視線・感覚・身体の拡張と「慰問」のコンテクスト
3. 学会等名 科研費基盤研究(C)「日本近現代文学におけるメロドラマ的想像力の展開に関する多角的研究」第2回研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五島 慶一
2. 発表標題 芥川龍之介の故郷（ホーム）&異郷（アウェー）（パネル発表「芥川文学の 中心 と 周縁 」のうち）
3. 学会等名 第14回国際芥川龍之介学会長崎大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒井真理亜
2. 発表標題 大正期の『サンデー毎日』について
3. 学会等名 第3回戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野知幸
2. 発表標題 GHQ占領期における『サンデー毎日』のアメリカ表象について
3. 学会等名 第3回戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果 発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦卓
2. 発表標題 文壇ゴシップを随筆として書くこと、あるいは 作家権 の先へ 『サンデー毎日』の川端康成から
3. 学会等名 第1回 戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果中間発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小澤純
2. 発表標題 文壇 のジオラマとパノラマ 週刊誌メディアから新思潮派の 物語 を読む
3. 学会等名 第1回 戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果中間発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 五島慶一
2. 発表標題 初期『サンデー毎日』に見る 文壇 あるいは東京との距離
3. 学会等名 第1回 戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果中間発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 副田賢二
2. 発表標題 戦争テクノロジーとしての「防空」空間と文学 虚空ノ地上を繋ぐ感覚のネットワーク
3. 学会等名 日本近代文学会 11月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 副田賢二
2. 発表標題 『サンデー毎日』表紙論 インターフェイスとしてのその機能とレイアウトの構造
3. 学会等名 第2回 戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果中間発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山龍
2. 発表標題 1938年前後の『サンデー毎日』 統制 とモダンの交差
3. 学会等名 第2回 戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果中間発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村健
2. 発表標題 『サンデー毎日』のイベントと視覚イメージが作る大衆文学 子母沢寛の聞き書きとやくざもの
3. 学会等名 第2回 戦前期『サンデー毎日』科研費研究成果中間発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野知幸
2. 発表標題 引揚文学における「ソ連」表象
3. 学会等名 20世紀メディア研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三浦卓
2. 発表標題 『サンデー毎日』の川端康成 作家権 から 知名(看板?読者大衆?) 作家権 へ
3. 学会等名 戦前期『サンデー毎日』科研費研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原卓史
2. 発表標題 試みとしての 合作 耽綺社とその時代
3. 学会等名 戦前期『サンデー毎日』科研費研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 五島慶一
2. 発表標題 初期『サンデー毎日』と芥川龍之介/薄田泣菫(あるいは菊池寛)
3. 学会等名 戦前期『サンデー毎日』科研費研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野知幸
2. 発表標題 GHQ占領期『サンデー毎日』におけるアメリカ/ソ連の表象
3. 学会等名 戦前期『サンデー毎日』科研費研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 副田賢二
2. 発表標題 浮遊する 墳墓 のメディア空間 細野雲外『不滅の墳墓』のナショナリズムと 怪異
3. 学会等名 怪異怪談研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 中村健	4. 発行年 2019年
2. 出版社 出版メディアパル	5. 総ページ数 136
3. 書名 出版史研究へのアプローチ：雑誌・書物・新聞をめぐる5章	

1. 著者名 副田賢二，中村健，三浦卓，原卓史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 非売品	5. 総ページ数 97
3. 書名 戦前期『サンデー毎日』と大衆文化に関する総合的研究 研究成果報告資料集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松村 良 (Matamura ryo) (00265571)	駒沢女子大学・人文学部・講師 (32696)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	原 卓史 (Hara Takeshi) (00756190)	尾道市立大学・芸術文化学部・准教授 (25405)	
研究分担者	天野 知幸 (Amano Chisa) (40552998)	京都教育大学・教育学部・准教授 (14302)	
研究分担者	和泉 司 (Izumi Tsukasa) (50611943)	豊橋技術科学大学・工学部・准教授 (13904)	
研究分担者	五島 慶一 (Gotoh Keiichi) (90589855)	熊本県立大学・文学部・准教授 (27401)	
研究分担者	三浦 卓 (Miura Taku) (90785619)	志学館大学・人間関係学部・講師 (37703)	
研究分担者	杉山 欣也 (Sugiyama Kinya) (90547077)	金沢大学・歴史言語文化学系・教授 (13301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中村 健 (Nakamura Takeshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小澤 純 (Ozawa Jun)		
研究協力者	富永 真樹 (Tominaga Maki)		
研究協力者	荒井 真理亜 (Arai Maria)		
研究協力者	西山 康一 (Nishiyama Kouichi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関